

氏名	吉 田 裕 人
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	学 術
学位授与番号	博甲第2358号
学位授与の日付	平成14年 3月25日
学位授与の要件	自然科学研究科生産開発科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	農村地域における高齢者在宅介護サービス需要の経済分析
論文審査委員	教授 佐藤 豊信 教授 小松 泰信 教授 横溝 功

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

日本において、平成12年4月に導入された公的介護保険制度では、在宅介護サービスの供給は、要介護者の要介護度によって決定されるが、要介護者を抱える世帯が必要とする在宅介護サービスの種類、需要量は、介護者・世帯の属性にも影響を受ける。このため、今後、公的介護保険制度を十分に機能させるためには、在宅介護サービス需要に影響を及ぼす介護者・世帯の特性を把握することが極めて重要と考えられる。

そこで、本研究では、以上の視点から、家族構成や所得体系などに特徴がある農家という世帯に着目し、まず、在宅介護に関するアンケート調査結果を通じて、農家の在宅介護サービス需要に影響を及ぼしている特性を明らかにした。その結果、在宅介護サービスの種類によっては、農家の在宅介護サービス需要に影響を及ぼしている特性は異なることが認められた。

次に、農業類型別・時期別に、やはり在宅介護に関するアンケート調査結果を通じて、農家の在宅介護サービスに対する需要量、需要価格の推定を行った。その結果、例えば、露地野菜作中心農家については、在宅介護サービスを利用する場合の最高限度支払い得る価格(時間当たり)は、農繁期では約4,000円、農閑期では約600円というように、農繁期・農閑期間で在宅介護サービス需要に大きな差違が認められた。

次に、以上の需要面からの分析に基づいて、農村地域における在宅介護サービスの供給体制からみた問題点を明らかにした。農村地域において、在宅介護サービス供給体は、特に、農閑期における需要減少のリスクを回避するため、在宅介護サービス供給に関する設備規模を小さめに決定する。その結果として、農繁期には、農家の在宅介護サービス需要において超過需要が発生し、また農閑期に、在宅介護サービス供給の設備規模以上に在宅介護サービス需要量が減少した場合には、在宅介護サービス供給体の利潤減少が発生する可能性のあることが示唆された。

本論文では、農家世帯の特性が、在宅介護サービス需要に具体的にどのような影響を及ぼすかを分析し、在宅介護サービス需要価格および需要量を明確にした。

論文審査結果の要旨

農村地域の抱える高齢化問題の特徴ならびに問題点解決を目的として、本論文では、①農村地域における高齢化問題の現状分析を行い、②農家という家計の特徴を考慮に入れて、在宅介護サービス需要に対する需要要因分析と、需要関数の計測を行い、その結果に基づいて、在宅介護サービス供給体制の問題点と課題・対策を明らかにしている。

これらの分析より、以下のような成果を得ている。

(1)農家は、第1に在宅介護サービス需要に強い選好を示しており、選好の第2はデイサービス需要であり、これら需要に影響を及ぼしている主要な要因としては、「農家の経済力」、「家庭内介護環境」等である。

(2)農業類型別・時期別に、農家の在宅介護サービスに対する需要量、需要価格の推定を行った。①酪農家は、在宅介護サービスに対する1時間あたり需要価格（以下、サービス需要価格）が約3,000円～4,000円までは、サービスを最大限利用することがわかった。そして、サービスに対する最高支払意志額は（約5,000円/時間）であることがわかった。②露地野菜作中心農家は、農繁期においては、サービス利用価格が約2,500円～3,000円までは、サービスを最大限利用することがわかった。そして、サービスに対する最高支払意志額は（約4,000円/時間）であることがわかった。それに対して、農閑期のサービスに対する最高支払意志額は（約600円/時間）であることがわかった。

これらの知見ならびに分析モデルは、現在大きな問題となっている農村地域の高齢化に対して、有効な分析手法・対策を提示するものである。本学位審査会は、これらの成果をまとめた本論文の内容ならびに参考論文を総合的に審査し、本論文が博士（学術）の学位に値するものと判定した。